

子どものひろば

くまのしんぶん
 KUMANO SHINBUN
 1980年創刊
 〒630-0192 和歌山県和歌山市大浜1-1-1
 TEL: 073-421-1111 FAX: 073-421-1112

15

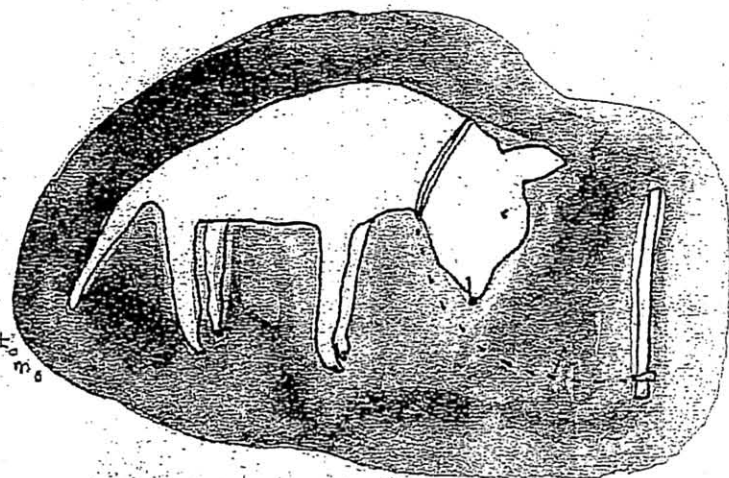
渡辺 眞子

矢で射られたり、耳や足先を切られたりといった動物虐待は、分かりやすいからニュースになっているだけです。小さな生き物に対する心ない仕打ちは、人目につかないところで、家中で、毎日のように行われています。

ガレージのおくなど、せまいところに追いやられるようにして短いくさりをつながれ、おしっこウンチは、いつまでもそのまま。お散歩どころか、名前を呼んで、なでられることもない。こんな飼い方をされている犬が、もし自殺の方法を知っていたら自殺すると、ある動物のお医者さんがおっしゃいました。

ネコを自由に外に出すも

捨てることも動物虐待に



イラスト＝太田 朋

のだから、発情ごとに子どもを産む。そのたびに子ネコを保健所に持ちこむこと

をくり返す飼い主がいま。ひにん・去勢手術さえしていれば、どれだけの幼い命がむだに殺されずにすんだでしょう。

全国チェーンで展開するペットショップやホームセンター。適切に管理されなかったばかりに、お店のガラスケースに入れられる前

に死んでしまったペットの数は、想像をこえます。これらは米国やヨーロッパの動物に関する法律では、虐待とみなします。

「かわいいから」「めずらしいから」と、お店でペットを買ったものの、世話がめんどうになったり、あきてしまったりし、捨ててしまっ人がいます。その人たちは、自分が捨てた動物がどうなるか考えませんし、その動物を救おうとする人の胸の痛みも知りません。

保健所に持ちこまれた犬とネコは、子犬を除いて、ほとんどが一週間以内に殺処分になります。野山に捨てられた小動物たちは、慣れないかん境で必死に生きのびようとしますが、その多くは苦しみながら、ゆっくりと死んでゆきます。

動物を捨てるのは、殺すことです。自分のペットを捨てることもまた、動物虐待なのです。(作家)